仙台市衛生研究所

情報広場

－infosquare－

第44号　2018年7月

＊仙台市衛生研究所ホームページ：
https://www.city.sendai.jp/bisebutsu/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/ese/index.html

今回は 平成３０年３月以降に全国的に話題となった 麻しん についての特集です

麻しんって？

麻しん（はしか）は，麻しんウイルスによって引き起こされる感染症です。空気感染が主な感染経路で**感染力が極めて強く，免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し，一度感染して発症すると一生免疫が持続する**と言われています。平成 30 年 3 月，沖縄県内で海外からの旅行客の 1 人が麻しんと診断され，沖縄県内の広範囲から継続して麻しん患者が報告されました。

＜麻しんの主な特徴＞

主な症状	・**まず初めに発熱や咳，鼻水といった風邪のような症状**がみられます。 ・**2～3 日間熱が続いた後，39℃以上の高熱と発疹**が現れます。 ・肺炎や中耳炎を合併しやすく，患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎を発症すると言われています。 ・死亡する割合は，先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われています。 ・妊娠中に麻しんにかかると流産や早産を起こす可能性があります。
潜伏期間	・感染してから 10～12 日間です。そのため，患者と接してすぐに発症するわけではありません。
予防方法	・**ワクチン接種が最も有効な予防方法です。** ・手洗い，マスクのみでは予防できません。
ワクチン 	・ワクチンは，定期予防接種の対象者（1歳児，小学校入学前の幼児）だけでなく，医療・教育関係者や海外渡航を計画している成人も，麻しんの罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合は予防接種を受けることをお勧めします。 ・**ワクチン接種により，95%以上の人が免疫を獲得でき，2 回の接種を受けることで 1 回の接種では免疫がつかなかった人の多くに免疫をつけることができる**と言われています。 ・特に、**平成 2 年 4 月 2 日以前に生まれた方は 1 回のみの接種の場合が多く，十分な免疫がついていない可能性があります。まずは母子手帳等を確認し，接種歴を確認しましょう！** ・ただし，妊娠している方は赤ちゃんへの影響をできるだけ避けるため，ワクチン接種を受けることができませんし，接種後 2 ヵ月程度の避妊が必要です。

全国での発生状況は？

全国的には，2008 年に 10 代～20 代を中心に流行しましたが，2009 年以降は 35～732 例で推移しています。また，男女別ではやや男性が多い傾向が見られます（表1・図1）。年代別では，男女とも 1～9 歳，20 代，30 代の報告数が多くなっています（図2・3）。なお，病型別では，麻しん（検査診断例）が最も多く，次いで修飾麻しん（検査診断例）が多い傾向に見られます（図4（次ページ））。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年※
全国(男)	6431	367	230	235	151	140	237	21	78	109
全国(女)	4584	365	217	204	132	89	225	14	87	78
総数	11015	732	447	439	283	229	462	35	165	187

表1　2008年から20017年までの麻しん報告数

図1　2008年から2017年までの麻しん報告数

※全国の 2017 年報告数は，年報が未確定のため，2017 年第 1 週～第 52 週（2017 年 1 月 2 日～2017 年 12 月 31 日）の暫定報告数を用いています。

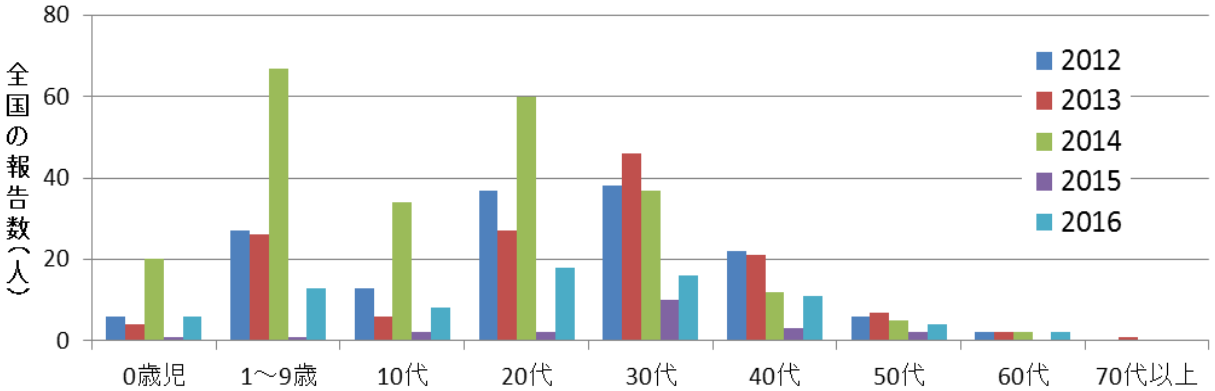


図2　2012年から2016年までの年代別の報告数（全国・男性）

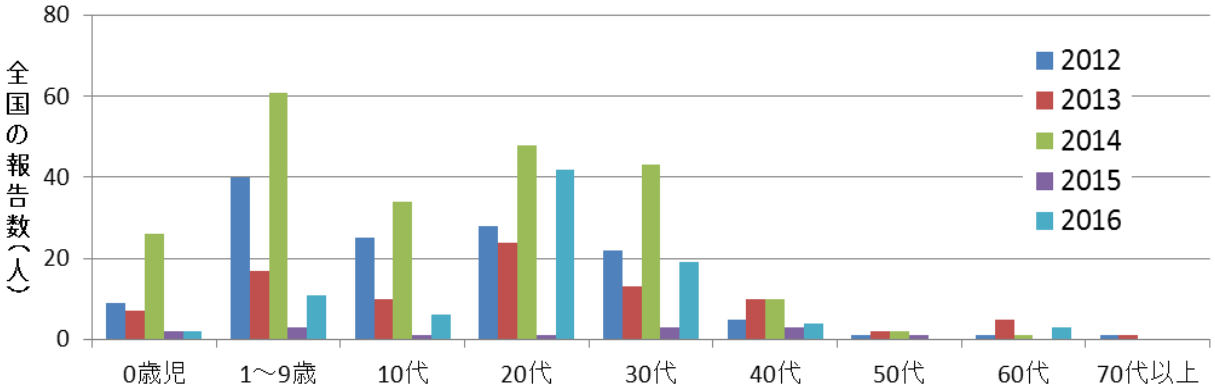


図3　2012年から2016年までの年代別の報告数（全国・女性）

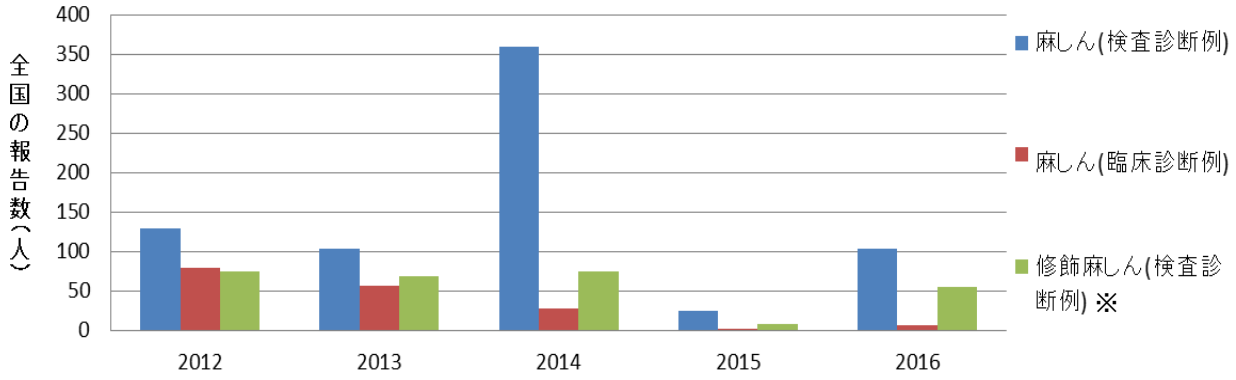


図4　2012年から2016年までの病型別の報告数（全国）

（2017 年は，年報が未確定のため，図2～図4に含めていません。）

※修飾麻しんとは？

ワクチン接種歴が 1 回のみの場合など，麻しんに対する免疫が不十分な人が麻しんウイルスに感染した場合，軽症で典型的ではない麻しんを発症することがあります。このような麻しんを「**修飾麻しん**」と言います。

例えば，高熱が出ない，発しんが手足だけで全身には出ないなどです。典型的な麻しんと比較して感染力は弱いと言われていますが，周囲の人に感染させる可能性があるため注意が必要です。

仙台市での発生状況は？（2008～2017 年）

仙台市内では，全国で流行した 2008 年には 16 例の報告がありましたが，2009 年は 3 例，2010 年は 2 例と減少し，2011 年以降は報告がありません（図5）。

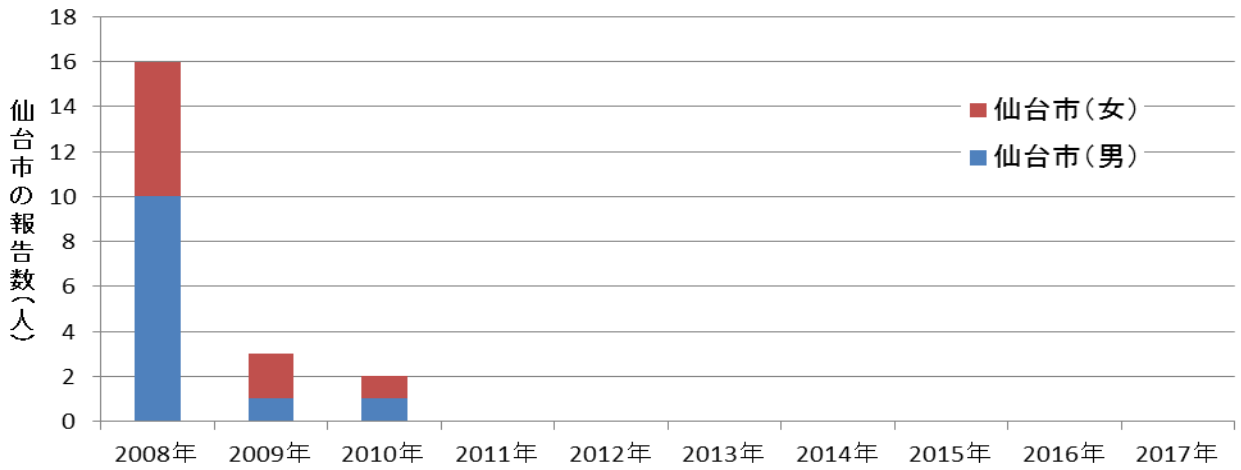


図5　2008年から2017年までの麻しん報告数（仙台市）

2018 年の仙台市での発生状況は？　（2018 年 7 月 5 日時点）

2018 年 1 月 1 日から 6 月 30 日までの間に市内で麻しんと診断された患者はいません。

医療機関を受診するときは？

麻しん患者と接触したことが明らかで，**麻しんを疑う症状（発熱及び咳，鼻水，涙がたくさん出るなど）を認めた場合，医療機関を受診する前に事前に電話で相談し，指示を受けてください。**感染力が極めて強いため，医療機関の待合室などで他の人に感染させてしまう恐れがありますので，受診の方法を確認してください。

麻しんと診断された場合は？

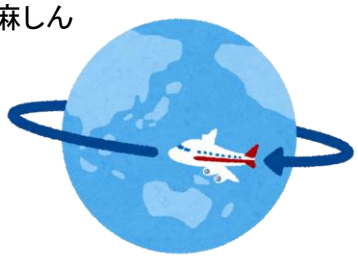
麻しんの発症者が周囲に感染させる期間は，発病日の 1 日前から解熱後 3 日間と言われています。この間は外出（通勤・通学）を控えましょう。

今後の対策について

日本は，平成 27 年 3 月に世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局より，麻しんの排除状態にあると認定されています。

しかし，**世界には麻しんが流行している国・地域が多くあり，**主にアジア及びアフリカ諸国で多数の報告があります。中でも，中国，インド，モンゴル，パキスタン，ナイジェリアなどからの報告が多く，これらの地域を訪問する場合は注意が必要です。

また，ここ数年，海外からの旅行客が年々増加していることもあり，海外からの麻しんウイルスの持ち込みを完全に防ぐことは困難です。**日本国内のどこであっても海外からの旅行客により麻しんが持ち込まれる可能性はありますので**，たとえ麻しんウイルスが持ち込まれたとしても，流行を拡大させないことが重要です。



そのためには，（1）2 回の定期予防接種を確実に受けること，（2）患者を早めに発見し，適切な感染拡大防止措置を取ること，などといった対策が必要です。

最後に

麻しんは，しばしば合併症を併発し，年齢にかかわらず命に関わることもある重篤な感染症です。感染拡大を防止するためには，多くの方が免疫を獲得した状態を維持することが重要です。そのためには 2 回の定期接種の徹底に加えて，感染者の早期探知と迅速な対応が欠かせません。

自分を守るためだけではなく，「自分の周りの人」や「社会を守る」ためにも，麻しんにかかったことがなく，接種歴が無いまたは不明な方はワクチン接種について医療機関に相談しましょう！

参考情報

麻疹とは
https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html

国立感染症研究所　感染症発生動向調査　週報（IDWR）
http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html
※IDWR2018 年第 20 号　注目すべき感染症「麻しん」

厚生労働省ホームページ「麻しんについて」
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html/

仙台市ホームページ「麻しん（はしか）に気を付けましょう」
https://www.city.sendai.jp/kenkoanzen-kansen/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/kansensho/kanen/masin.html

仙台市衛生研究所　微生物課企画調整係
〒984-0002　仙台市若林区卸町東 2-5-10
TEL：022-236-7722　FAX：022-236-8601